

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3391000019		
法人名	社会福祉法人 愛誠会		
事業所名	グループホーム 心		
所在地	岡山県新見市唐松1749-2		
自己評価作成日	平成27年2月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiakensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3391000019-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd">s://www.kaiakensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3391000019-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd</a>
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成27年3月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域・家族とのつながりを大切にしながら、ご本人の主体性を尊重して地域の行事への参加等自由な外出を支援している。職員・利用者の方というかきねをとりはらい、同じ空間を共有する生活者としての視点を忘れず、日々の関わりの中で、同じ景色・季節を感じながら、真剣に向き合う中でご利用者の心の声・思いを引き出し支援につなげている。又、家族交流会等をおとして、グループホーム心として大切にしている事(ご家族とご利用者の親子の絆等)をご家族に伝え知って頂きながら、関係性を深めていき、ご本人を中心に一緒に共に考え・支え合うという関係づくりを努めている。どのような認知症症状があっても、その人の人生に思いを寄せ、自立支援、生きがいを創りだし広がりのあるケアを大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「開設十周年記念行事をそろそろ考えなければ」というグループホーム“心”は、東北の福祉の拠点として先導し続けている社会福祉法人「愛誠会」の一員としての存在感を発揮している。今日は3月3日の嬉しい雛祭りの日。法人の行事として隣接・特養のまんさくホールで琴と尺八を多くの利用者と一緒を楽しむ等、大所帯の恩恵や協力をたっぷり受けながら独自の認知症ケアを実践している。午前中のリビングルームはみんなエプロン姿で、今日の祭りの食事作り。職員と玉子焼きに挑戦する人・番茶の袋詰めや新聞紙をたたむ人も居る。中にはゆったりと新聞を読んでいる人も居て、みんな違ってみんな良い。昼食に出された寿司で作ったお雛様の着物は先程見た薄焼玉子。「美味しかったですよ!」と声を掛けると満足そうな笑顔。昨年認知症介護指導者研修を受けて帰ってきたばかりという管理者が、今後こういった笑顔をさらに増やし続けるだけでなく、内外で活躍し貢献して欲しいと願っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全体で理念を共有しそれをふまえた上で、会議等で掘り下げて考えて目標設定を行い、具体的なケアへとつなげている。	基本的な理念に加え、今年度より新たに行動理念「ご利用者の喜ぶ事を一生懸命に」を掲げている。職員の通用口に「グッドジョブボックス」を置いて、職員間で仕事や長所を評価し合う取り組みを始める等、意欲の向上とスキルアップに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の各種団体と様々な形で交流が続いており、施設自体が地域住民の憩いの場、研修の場、イベントの場となっている。年に2・3回地域の方に来て頂き一緒に料理等行い交流を図っている。	地域との繋がりは深く、ホームも含めた法人全体が地域福祉の活動の拠点となっている。学区の高齢者ふれあいの集いに参加したり、幼稚園児、中学生等との交流もある。地域の神社大祭の見学、市の文化展を觀賞する等、幅広く地域交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ケア等取り組みについて、地域住民やご家族に対して実践報告会を、年2回開催し、ケア内容を公開するとともに、認知症に対する理解やケア方法を還元している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	プライバシーに配慮し具体的な事例報告や今行っている取り組みの様子など伝え、質問や意見等頂くことで、サービスの質の向上にむけて取り組んでいる。	運営推進委員・家族等の参加のもと、定期的に開催している。ホームの活動報告や音楽療法等の事例発表、介護保険制度改正に関して市の取り組みや方向性の説明、家族からも質問が出る等、活発な意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会に毎回、新見市高齢者支援課職員の派遣を要請し、会議に出席してもらい、各委員との情報共有や情報交換、地域との連携状況、ケア状況について市としての意見を求めている。	市の在宅連携拠点事業で行った福祉相談会や講演、映画上映等への参加依頼に協力する等、日頃からよく連携を取り合っている。運営推進会議では参加者から積極的に市の見解を求める場面もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の方が外出しそうな様子を察知したら、職員間で連携を図り、さりげなく一緒についていく等安全面に配慮し自由な暮らしを支えるよう支援している。	玄関の施錠はしていない。安全対策の為玄関にチャイムを取り付け、夜間等の転倒防止対策として家族の了解を得て居室にセンサーマットを設置している人もいる。今、身体拘束を必要とする人はいないが、身体及び言葉の拘束については職員間で周知徹底を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の中で高齢者虐待防止法などについて学び、理解を深めている。又、言葉遣いについてもQC委員を中心に禁止用語を事務所に張り出し、職員間で気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用された方が入所されているため、再度勉強会を開き職員が理解できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は法人の職員と管理者が説明を行っている。利用者側の立場に立ち、事業所のケアに対する考え方等ていねいに説明を行いながら、そこで不安・疑問等言って頂きながら納得して頂けるように説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	小さな事でもご家族の方に連絡し、又月に1回はおたよりをこちらから発信して情報提供をしている。そして、ご家族の方と職員でゆっくりと話す機会間を定期的に作り、ケアへの要望・意見を言ってもらえるようにしている。	今年度は第1回の家族交流会を実施。ウッドデッキを活用して交流を図り、後でアンケートをとり、家族の思いや今後のケアの方向性等を把握することが出来た。毎月職員が写真掲載の状況報告等のお便りを送付し、面会の機会を捉え家族と話し合っている。	日頃からの家族とのコミュニケーションやおたよりを通しての情報はとても良く出来ているが、家族からの発信が少し弱いのではないかと思われる。意見を頂く為の工夫と、何気ない会話をピックアップしてメモし、ケアや運営に生かしていく方法を検討してみたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善委員会、両立支援委員会において協議され提案された意見や改善点について、全体に周知すると共に、幹部会議に提案し規則への反映等行っている。	敷地内に託児所が設置され、0才児から預かってもらうことが出来る。授乳時間にも配慮があり、男性職員に育児休暇がある。ホームのウッドデッキ設置の要望も受諾され、早速、中庭を改装して実現することが出来た等、職員の意見・要望は運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、職場内研修を年2回30講座程度企画し、実地している。さらにキャリアパス制度を就業規則において定め、職階と問われる能力、必要な資格及び給与への反映等が明確に示されている。子育てしやすい職場環境として、ワークライフバランスに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初級、中級、上級別に研修を行い、それぞれのレベルに応じた指導・教育を行うとともに、新人職員には一年間を限定にプリセプターを置き、新人職員の定着と育成に当たっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外研修に積極的に参加させると共に、法人内の他施設研修にも参加させ、モチベーションとケア内容の向上を推進している。又、市で行われている医療連携会議には管理者が出席している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接でご自宅に伺い、ご本人が生活されておられる環境・生活状況・生活歴等把握できるようにしている。又、ご本人にお会いしお話しする事で、ご本人に受け入れてもらえるような関係性が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の段階でこちらに訪問して頂く機会を作り、施設の雰囲気を感じて頂いている。又今までの経緯等ゆっくりお聞きし、ご家族の方の思いにじっくり耳を傾けながら関係性が築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時状況等を確認しながら、利用開始までに何度か相談を繰り返す機会を作りながら、必要なサービスにつなげていけるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご利用者の方と共に生活しているという視点に立ち、本人の思いを大切に不安・喜び等分かち合いながら共に支え合える関係作りに留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の様子をこまめに連絡・相談しながら、ご家族の方の思いが引き出せるように意図的に関わっている。又、職員がご本人とご家族の方にとっての潤滑油になるように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の方に協力して頂きながら、地域での行事に参加して頂いたりしながら、昔からの友人との交流が継続できるように支援している。又、特養入所の友人とも外出支援等行い交流している。	特養での法人全体のイベントには全員で参加している。その会場で知人に再開し、お互い喜んでくれる人達もいる。以前から習慣にしていた温泉に家族と毎週行く人、近所の友人に会いに行く人等、それぞれの馴染みの関係を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を全職員が把握している。その上でその日のご利用者同士の様子等見守りながら、利用者同士お互いの支え合う力が発揮できるよう職員が調整役になり支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方についても生活が継続できるようにこれまでの生活・支援内容・注意点等細かく情報提供している。又、同じ事業所であるため退所後も様子を伺いこいき職員と連携をとり、継続した支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わり合いの中で、日常会話の中からでてくる言葉・表情を大切にしている。その言葉・表情の裏にある思いについて、生活歴等の情報から推測して考える視点を大事にしている。	日々の会話の中から、本人の気持ちを推測し、その人の思いを大切にしている。表現力が乏しい人に対して、職員も想像力・推察する力を磨く訓練をしている。利用者の行動には原因や根拠があり、その根拠となるものを話し合いながらケアに反映している。	「会話を増やし思いを引き出しケア記録に残す」という目標は今後も継続すると聞いた。その時や、家族へのたより等で、本人の言葉や様子を記録する時、職員が情報を共有しやすい工夫や家族への伝え方等検討をして欲しい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を知る事の意義や重要性をご家族や知人の方に理解し協力して頂き情報を収集しながら、ご本人を深く知るてがかりにしてケアに活かしていけるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中でアセスメントを行い、できる事に視点をあててみていく事で、利用者の方の生活の中での役割作りに繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族と連絡を密にし、日々の関わり合いの中からご家族・ご本人との意見・要望を把握し、その事を含めいろんな方面からの意見を把握した上で介護計画を作成している。	6か月毎にカンファレンスをして、身体的ケアのみでなく、役割作り、本人の楽しみ作り等に重点を置いて職員間で話し合っている。本人・家族の意向を基にプランを作成し、定期的及び必要に応じて見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体状況・小さな変化・ご本人の具体的な言葉・様子について、個別に記録を残すことにより、情報を職員間で共有している。その記録をもとに介護計画の見直し等に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の要望・状況に応じて、柔軟に対応して支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、利用者が柔軟に活用でき、これまでと変わらず地域生活者として生活が継続出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医へ毎月通院介助を行い受診している。ご家族の方が同行して下さる方が少ないため、普段の様子や変化を伝え医療とも連携を図るようにしている。	利用者の半数近くは家族が遠方の為、主に利用者の状態や事情をよく把握している管理者が受診に同行する事が多い。それぞれのかかりつけ医とはオンコール体制で連携が取れている。受診の内容や状況は毎月のお便りで家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護士で判断できないような場合、唐松荘の看護師に相談し助言を受けることがある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の状況を医療機関に提供し、入院中は週に1・2回は管理者が面会に行き、看護師・家族との情報交換を密に行いながら、退院後の支援がスムーズに行えるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだ該当者がいないが、ターミナルケアに関する指針に則り、可能な限り支援する方針がある。	軽度な人が多く、ターミナルに該当する人はいない。重度化が進み、医療面が必要になった時には特養や入院に移行する人がほとんどである。今後も本人・家族の希望があり、医療的処置が必要なければ、医療機関と連携を図りながら、出来る限り支援していこうと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修や消防署の協力を得て救急手当や蘇生法の研修を実施し、事故発生時に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月特養と合同による避難の実践訓練や非常用機器の取り扱い、夜間想定訓練などを行っている。又、地元の消防団の方に協力して頂き一緒に訓練を行っている。	地元の消防団が参加して避難訓練をした時は、消火栓の使い方の指導があり、職員も放水訓練を実施した。日頃から法人内の他施設との連携が良く、緊急時には特養からの応援もあり、協力体制が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時も、ご本人の自尊心・プライドを尊重し気持ちを大切にし、さりげない支援や言葉かけに努めている。	特に排泄時の声かけには自尊心を傷つけない言葉に配慮している。例えば、ズボンの履き間違いをしている人に「素敵なズボンですね」等、声をかけ直してもらったり、トイレという言葉を使わないで「お部屋に行きましょう」と誘う等、一人ひとりが尊重されている様子が利用者の笑顔からも窺える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人一人の状態に合わせて、本人が選びやすいように複数の選択肢を提供して、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のその日の体調・気分に合わせて、その方の生活のペースを大事にし対応するように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさが保てるように、本人の好みや意向を大切に支援している。又、女性の方ばかりであるため、外出時お化粧をサポートし、おしゃれが楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人できる事・得意な事を大切にしながら、調理・盛つけ等して頂いているが、その日の体調や気分にもより難しい時がある。職員と利用者が同じテーブルを囲んで食事ができるよう雰囲気作りにも大切にしている。	特養の管理栄養士が献立を作り、材料が運ばれてくる。職員と一緒に利用者も手伝いながら作り、今日は玉子焼きで作るお雛様の衣をホットプレートで作っていた。全介助、ミキサー食の人には「ソフト食」を提供し、目で見て楽しめる工夫があった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立をもとに栄養バランスは確保できている。一人一人の一日全体の食事・水分・摂取量をチェックし、食事が食べれない時は高カロリー補助食品等で補いながらその都度柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の方の状態に合わせて、できる方には声掛け・見守りをし、できない方には職員が口腔ケアを行い清潔の保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しながら、ご本人の様子から敏感に察知したり、さりげなく声をかけ誘導する事でトイレで排泄できる機能が維持できるように支援している。	排泄が自立している人は数人、他の人は声かけ、誘導、見守り等で、自立に向けた支援をしている。各居室にトイレが設置されており、安心してゆっくり排泄が出来る。職員間で一人ひとりに合わせたパットの検討もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すために、便秘の方には乳製品等で十分な水分補給に努めたり、軽い体操を促したり等しながら取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者のその日の希望等お聴きし体調や気分配慮し、その方に合わせた入浴方法で入って頂いている。入浴中は、リラックスできるような雰囲気作りに配慮している。	週2回午後を基本としているが、希望により随時、入浴している。羞恥心が強く、入浴困難な人に職員が声かけや雰囲気作りを工夫し、清拭から徐々に支援していき、今ではシャンプーが出来るまでになった人がいる。重度化しても出来る限り2人介助で浴槽に入ってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムが保てるように努めている。生活習慣より、なかなか眠れない方には、温かい飲み物を飲んだりお話を聞いたり等して安心して休んで頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の処方・副作用の説明をファイルに保管して職員がいつでも確認できるようにしている。薬に変更があった場合、連絡簿に記入・薬の処方箋をつけ情報が伝わるようにして、状態の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの得意分野で能力が発揮できるようお願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えている。ご本人の趣味等活かし生活の中で楽しみが持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の利用者の方の希望を反映し、散歩や買い物等出かけている。又、季節を感じて頂けるような外出の機会や、友人との買い物等の外出支援を行っている。	隣接する特養では季節毎に合同イベントがあり散歩を兼ねてよく参加している。天気の良い日は折りたたみ車椅子を持って少し遠くまで散歩に行き、疲れた人は帰りは車椅子でという配慮もしている。仲の良い人とのドライブ、文化展の見学、墓参り等、職員は個別の外出支援にも力を入れている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の方よりお金を預かり普段事業所が管理している方でも、外出時買物・外食等の時は財布をお渡し自分で払って頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年ご家族の方には、年賀状を出すように支援をしている。又、ご家族や友人の方から荷物が届いた時などは、こちらから働きかけご本人に電話をかけて頂いたり、お礼のお手紙等出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁には各月ごとにご利用の方と一緒に考えながら作った季節が感じられる作品を飾りつけ、みなさんで楽しめる空間としている。	元中庭にウッドデッキを作り、リビングや廊下から自由に出入り出来る。天気の良い日は日光浴・外気浴をし、お茶を飲んだり、食事をする等して楽しんでいる。「うれしいひな祭り」等、季節毎に利用者が書いた歌の歌詞を廊下の壁に展示しており、リビングでは共同作業をしながら利用者同士の会話が弾んでいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	できるだけその時の気分で、いろんな居場所でも過ごせるように、窓際に椅子を並べたり、一人になる空間が作れるように等配慮し、落ち着いて過ごせる居場所づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族の方と話しをしながら、思い出の品・なじみの物・写真・仏壇等持ちこんで頂き、ご本人にとって居心地のよい空間作りができるようにしている。	各居室には家族の協力を得て、その人の思い出のアルバムを置いている。市販のラックを仏壇にアレンジして活用している部屋もあり、毎日ご飯とお茶を供えるのが日課になっている人もいる。個々の生活習慣を大事にしながら、居心地の良い環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の方の身体状況に合わせ、常に利用者の方の視点にたち、危険な要因はないかなど安全面に配慮して環境整備を行っている。		